

本取り組みは、愛知県豊川市において実施された高速道路事業で、2016年に開通しました。

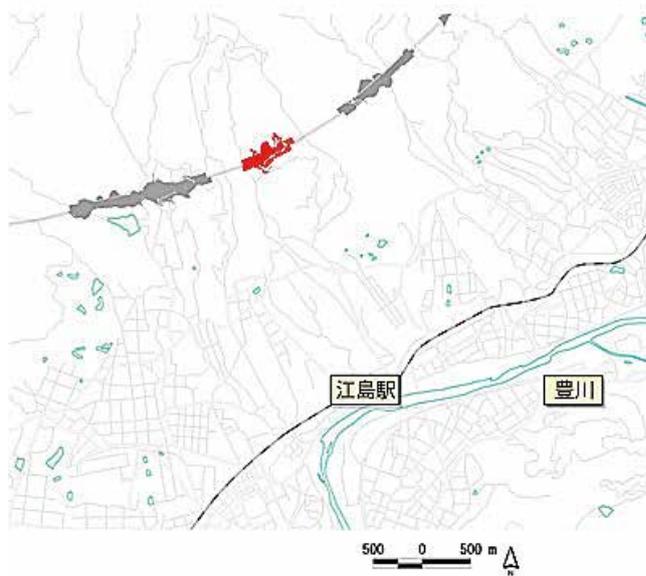
炭焼（すみやき）地区が含まれる豊川工事事務所管内は、三河山地や八名山地、豊川沿岸の洪積台地・沖積平野などに囲まれた約30kmの区間です。炭焼地区は自然豊かな「本宮山県立自然公園」の中に位置していることから、中日本高速道路株式会社では、計画の初期段階からさまざまな環境対策に取り組んできました。

地域性苗木の活用

地域に自生する植物の種子を採取・育成し、現地に植える、「地域性苗木」の活用に取り組んでいます。他の地域の植物との交雑を抑え、地域本来の植物の遺伝子を守る効果が期待されます。

スギ・ヒノキ人工林の広葉樹林化

事業区域内に広がっていた人工林が将来的に広葉樹林に置き換わることで、生物多様性の質が大幅に向上します。



評価対象事業の位置



炭焼地区の全景



植生が回復しつつある切土法面